

## キラールパルス

二〇〇七年三月二十五日午前九時四十二分  
私は自然の雄叫びを聞いた

金沢駅の待合室全体が大きく振動する  
頭を上げると、人々のどよめきが  
鳴門の渦潮のように出来ては消える  
老婦人は駅員に昔の福井震災の事を語り  
列車停止のアナウンスが声高に流れる  
不安な面持ちの人が行列を作ると  
その片隅で自動券売機はフリーズする

長らく鳴動する事のなかった  
北陸の大地が、わずか十数秒  
咆哮しただけで数十万人、否  
百万以上もの人間が右往左往  
するのだ

自然は人間に対し  
「余りいい気になるな」と  
言っているかのように  
そして一種のショック療法のように  
地面は揺れる、揺れ続ける  
能登沖の海底の、奥深くの鳴動が  
私達に伝わって来ている  
私達はこのメッセージを真摯に  
受け止めよう  
自然の声なき声を心の耳で聞き  
大地の叫びに体全体で聞き入ろう

人工的環境にどっぷりとつかった  
我々文明人は  
こうして原初の記憶に戻って  
行くのだ